

明るいシステム倶楽部 会報9月号

(2023年)

この夏は、異常に長く続く猛暑のせいでしょうか、熱中症を含む搬送による救急車が街中を駆け巡っているようで、今後も各人の残暑等に対する積極的な体調管理が大切ですね。

一方、盆休みを中心とした台風7号の襲来により新幹線ダイヤが大きく乱れ、「計画運休」と合わせ、運転再開の判断の難しさが露呈しました。今後は、適切な運行管理や情報発信を推進する立場からは、貴重な教訓として現実に即した具体的方策を練ることが急がれます。

第61回 明るいセミナーの開催:9月4日(月)14時 ~16時30分

今回は、金網メーカーの登場です。注目すべきは、敢えてシニアを活用し、又、大手企業が手を出さない分野に特化する等、「発想の逆転」を感じさせるユニークな企業です。

ぜひ多くの方々にご来場いただきたく、心よりスタッフ一同でお待ちいたしております。

令和5年度の主な事業計画について

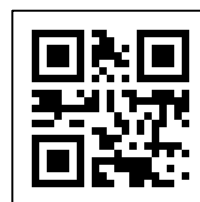
今期の計画では、当初「明るい企業対抗運動会」を11月頃の開催予定しておりましたが、会場の早期予約が確保できず、今期は断念することになり、ご参加を検討されていた企業様には大変申し訳なく思っております。なお、「明るいセミナー」や「明るい社長会」等は、会員の皆様のご意見も伺いながら、今後順次実施できればと思っております。

< 9月の送付物 >

- ① 日本一明るい経済新聞 9月号
- ② ビープラッツプレス 最新号
- ③ 年会費納入のお願い (該当者のみ)

明るいシステム倶楽部

ホームページ



< 9月以降の主な活動予定 >

9/2(土)	気楽な ZOOM サロン(33)	当倶楽部会員専用の交流の場です	20:00~21:30
9/4(月)	第61回 明るいセミナー	大阪産業創造館 4階イベントホール	14:00~16:30
9/20(水)	役員会議(38)	今年度事業計画の具体化等	13:30~14:40
9/20(水)	明るいシステム検討会議(21)	「明るいこと」の意味ほか	15:00~16:00

AKS 市民大学 (ZOOM 形式)・・・開催する曜日に一部変更がありますので、ご留意下さい。

9/13(水)	菊池教室(32)	「感性を育む和学講座、古事記」	20:00~21:30
9/23(土・祝)	宮崎教室(36)	「あっ！と驚く問題解決法」	20:00~21:30
9/27(水)	柴原・松居教室(25)	「みんなで考える明るい職場」	20:00~21:30

「明るく・より良く生きるための新・終活」と法的武装講座
番外編 その2

明るいシステム倶楽部会員 黒田 能弘(くろだ・よしひろ)

過ぎし猛暑・8月のある日、涼しい書店で『老いては「好き」にしたがえ!』著者・片岡鶴太郎さんの新書に眼が止まり購入し、喫茶店で約1時間読んでみた。帯にこうある。「終活なんてやんない。自分のためだけに、ただ生きる!」と。わたしはこのところ、「新・終活」をテーマに各所で主に「老後には、自筆証書遺言や死後事務の委任契約、介護保険制度や成年後見制度といった法的武装の知識も必要ですよ!」といった話しをしている立場だけに、「終活なんて関心ないよ!オレが死んだら女房がなんとかしよるやろ!」とか、「終活という終末期の活動なんて、暗いイメージだから避けて通っているよ!」といった声も多く聞き、「黒田ハン、「終活に変わるなんかいい言葉がないんか!」といった声も聞くところではあります。

そのネーミングについて模索している時期でもあり、「終活なんてやんない。死後のことより、今日に集中して生きる!」と帯にある文言に注目し、反対意見も聞いてみようとの新書を開いてみたのです。

著者・片岡鶴太郎さんについては、芸人であり、プロボクサーのライセンスを目指したり、ヨガに修練したりと、絵画についても個展を開くほどの腕前と才能に溢れた方だと少しは聞き及んでいた程度ではありました。しかしながら、読んでみて共感・共鳴する箇所が多々あり、新鮮な感動を呼び起こされたのです。

あとがきに、こうあります。「今日の自分がいちばん」と思って、カッコよく老いる。元々は芸人からスタートした私の人生でしたが、ここまで駆け足でお話ししてきたように、さまざまな挑戦を重ね、変化していきました。すべては私の中に元々あったシード(種)のサインを受け取ったことから始まった。そしてそのシードの声を聴き、選択して行動していった結果が現在です。

自分の中にシードを見つけたら、毎日毎日水をやり、育てて発芽させる。挫折しそうな時も、自分が決めたことと踏ん張って反復する。「水を与えて育てていったら、神さまが祝福してくれる」と信じて、毎日毎日続ける。すると、必ず神様からギフトが届きます。上達した証をくれるんです。「また大きくなったね。頑張ったね」と。

これは人様から与えられるものではなく、自分にしか感じられない魂の歓喜。その喜びは到達した人にしかわかりませんが、とても気持ちのいいものです。ああ、神様が祝福してくれているなあ、と幸福感に包まれます。この祝福の声はささやきみたいなものですが、これが後ろ盾になってくれていると、固く信じています。だから、続けられるんですね。

わたしも、この新書を読んで新しいことにチャレンジすることにしました。(すぐに影響されるのがわたしの欠点ではあるが・・・)。今からでも遅くはない!「死」から考えれば今がいちばん若いのだから! 80歳からのリスキリング(学び直し)であり、リスタートです。

「新・終活」アドバイザー 兼 NPO法人高齢者・障がい者後見人の会 代表

◆西国三十三所札所巡り旅 (13) 西国 第 12 番札所 (岩間寺)

岩間山 正法寺 (滋賀県大津市) 本 尊：千手観世音菩薩

明るいシステム倶楽部会員 阿久根 芳臣

行 程：大阪市内から 57k m (蒲四～茨田浜、第二京阪道、京滋バイパス、国道 1 号)

醍醐寺から 23k m (府道 7 号、京滋バイパス、国道 1 号)

(宿泊：南郷温泉「二葉屋」温泉と近江牛を味わうプラン@¥14,000)

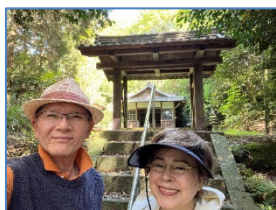
今回は前日の「見どころ沢山の醍醐寺」が夕方まで“目いっぱい”掛かることも予想されていたので、醍醐山の裏 (東側) にあたる大津市南郷で温泉宿を予約しておいた。お陰で今朝は宿から岩間寺迄 10 分と掛からずに行ける事になるので、部屋でゆっくりと過ごせたのだが、部屋に「瀬田の洗堰」の事などが紹介された冊子があり、その中に「三尾山大日堂」の記事があった。明治時代に瀬田川を拓げるにあたり山を削られたらしく、棄てられた時期もあったと云うので興味をそそられ、時間もあるので途中寄ってみることにした。

大日如来様は私の「守り本尊」であり昔から大事にしてきたので“捨て置けぬ”と云うことである。お堂は“ミニ開発”されたような住宅地にびっしりと囲まれており、車にナビがなければ行けない様な中々の迷路となっており、一般の参拝者は足が遠のくだろうなと思われた。しかし、着いてみると立派な石塔もあり、きれいに雑草も刈り込まれ、地元の有志の方々に頭が下がる思いだ。お賽銭と云うよりも感謝を込めて奉納の気持ちで納めてきた。

さて、いよいよ岩間寺だが、ここは熊野、吉野とともに日本三霊場の一つに数えられている古寺だ。ご本尊の「金銅造千手観世音菩薩立像」は“汗かき観音”とも呼ばれ、衆生を救済するために夜ごと厨子を抜け出して百三十六地蔵を駆け回られたと云う。また開基した泰澄大師と弟子の“雷”との約束事にちなんだ故事に由来する「雷除け観音」の別名もある。本堂の脇には俳聖・松尾芭蕉が「古池や 蛙飛び込む 水の音」と詠んだとされる“芭蕉の池”があり、近江方面にたびたび足を運んでいたとされる芭蕉も岩間寺によく参籠していて、あの有名な句が生まれたのだろうか。残念ながら凡人の私には何も浮かばない。

岩間寺はまた、“ぼけ封じ近畿十楽観音霊場”の一つとして知られ、「ぼけ封じ観音像」に手を合わせる参拝者も絶えないと云う。一番心配な私は妻をさて置き“指紋が無くなるぐらい”に手を擦り合わせ、お願い事を聞いてもらい梵鐘をひと撞きして来た。観音様が私の願いを聞いてくれるかどうかは“未だ 今はわからない”ただ諸行無常の響きありだ。

三尾山大日堂 (大津市黒津 1)



正法寺 本堂 (岩間寺)



十楽観音と鐘を撞ける鐘楼



ひとりで頑張っているという幻想から抜け出す

明るいシステム倶楽部 理事 川上 広幸

「なんでうまく行かへんのやろ？」という言葉をよく聞きます、マイナスの言葉の代表例です。

「なんであの人は手伝ってくれへんのやろ？」もよく聞きます。組織の中に存在しているといろんな悩みがありますね、自由人の方も。そこで、私が思いどおりにいかないときに心がけていることがあります。

「なんでうまく行かへんのやろ」を「もっとうまくやれる方法はなんやろ」に、

「なんで手伝ってくれへんのやろ」を「あの人はどうしたら手伝ってくれるんやろ」に、変えることです。

人生は失敗の連続でも失敗の人生などなく、いつでも、どこでも成功に向けて立ち上がることはできるのではないのでしょうか。ひとりでできるという自信は大切なことですが、でも一人でできることは限りなく少ないです。例えば、現代は自己肯定感が低いと感じる人が多い時代です。自分一人で自分を肯定しようとしてはいいのでしょうか。ひとりでできることは少ないのです。自分がそんなものになることができるように、周りにいてくれた人が助けてくれていると思うんです。周りの人のおかげで今の自分があるんです。だから、その時々に出会った人々、長い付き合いの人々、いつもそばにいる人とのつながりを疎かにする人は、同じところをグルグル回るだけになってしまうのです。目の前のひもを次々に結んでは解き、結んでは解きを繰り返しているようなものです。ひとりでは頑張れませんし、一人では生きていけないと思えば、人への感謝の心や感謝の表し方に工夫を考えるのではないのでしょうか。喜びだけしかない人生はあり得ません。傷も不安も失敗もあります。しかしその傷口に生きる意味を、不安に光を、失敗に力を見出す努力をしたいと願います。

コミュニケーションはキャッチボールとよく言います。これは一方通行のコミュニケーションというのは、それは聞く人と話す人が存在しているだけのことでコミュニケーションとは言えないからです。例えばセミナーや講演会などが考えられますね。しかし、1対1の会話でも一方通行のコミュニケーション、ありませんか？ コミュニケーションはキャッチボールなんですから、投げたボールしか返ってきません。感謝のボールを投げたら感謝のボールが返ってくる、怒りのボールを投げたら怒りのボールが返ってくる、軽い「ありがとう」を投げたら軽い「ありがとう」が返ってくる、頼りにしていなかったら頼りにされない。反対に、怒りのボールを受け取ってもそのまま返さない努力が必要です。表面だけキレイに装っても、コミュニケーションは、自分のあり方が相手に当たって跳ね返ってきているだけのことで、周りを理解して理解される、与えてから貰う、頼りにしたら頼りにされる、というしくみを理解しないと遠回りをしてしまいます。

人や社会を変えるのは大変です。自分は今日から変わることができます。人のために生きることは無意味なんでしょうか？自分が一番なのんでしょうか？あなたは誰かのために生きているのではないのでしょうか？その誰かは必ずいるはず。自分は一人で生きているなんて幻想です。

心配してくれる人も、気にかけてくれる人も、愛してくれる人も、ついでに言うと憎んでくれる人も、必ずいます。そんな人たちに心から「ありがとう」といえる日々を歩みたいものです。そうすれば周りの人が知らずに助けてくれる豊かな人生を送ることができると私は信じています。